



# これからのリンゴ黒星病防除

## ～薬剤耐性菌への対応～

### 概要 Abstract

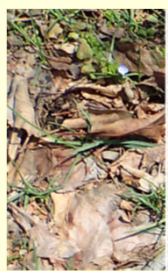
- ・薬剤耐性菌の発生に苦慮する地域への対応策を示した。
- ・融雪後、落葉を粉砕すると子のう孢子飛散が抑制される。
- ・薬剤散布における重点防除時期は「展葉1週後から落花20日後」。



### 成果 Results

#### 耕種的防除

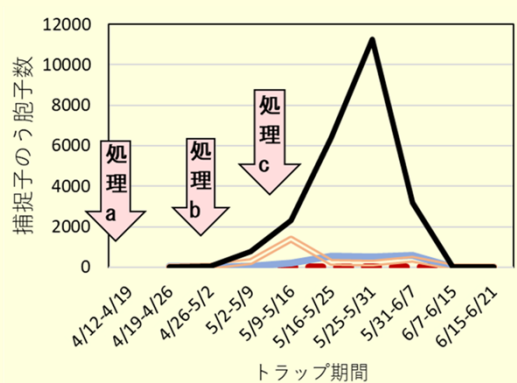
**早めに草刈りするだけ！**  
融雪2～3週後から展葉期までに  
乗用芝刈機で落葉を粉砕する。



粉砕処理前

粉砕処理後

乗用芝刈機  
落葉を粉砕できるなら  
何でも良い



- 処理a：4/15乗用芝刈機による粉砕
- 処理b：5/2ハサミで2cm角に粉砕したモデル
- 処理c：5/16ハサミで2cm角に粉砕したモデル
- 無処理

病原菌が潜む落葉を粉砕すると  
落葉が乾燥し、子のう孢子が壊れる。  
粉砕処理は早いほど効果が高い。

#### 薬剤防除

展葉期前から子のう孢子は飛散開始し、  
5月～6月中旬までは活発に飛散  
葉をきちんと守る目的で展葉1週後から  
**薬剤の効果切れないように散布する。**

薬剤名	効果判定	耐性リスク
インピルフルキサム水和剤F		
シプロジニル水和剤DF	A	中～高
イブフルフェノキン水和剤F		
ピラジフルミド水和剤F		中～高
チウラム水和剤F		
マンゼブ水和剤	B	
キャプタン水和剤		低
TPN水和剤DF		
フルオリミド水和剤DF		
有機銅水和剤DF	C	低

- A: 2週間隔散布でも効果が高い。
- B: 1週間隔散布で効果が高い。
- C: 1週間隔散布で効果がやや劣る。

**重点防除時期はAを中心にBを組み合わせる。**  
同じ剤を連用しない。

**重点防除時期が終わったらBを中心に散布。**  
夏季、高温になったらCを使用する。

葉に病斑が発生すると分生子が飛散し  
発病が拡大する。

### 普及 Dissemination

DMI剤及びQol剤に対する薬剤耐性菌が発生した地点での  
リンゴ黒星病防除に活用できる。



### 連絡先 Contact

中央農業試験場  
病虫部 予察診断グループ  
0123-89-2290  
central-agri@hro.or.jp